2025（令和7）年9月
習志野市男女共同参画社会づくり情報紙
第60号

きら Kira Kira きら

特集

「看護師になる」という選択

～多様性とともに歩む私たちの未来～

※

前号の第５９号では、男性のイメージが強い消防士という職業で活躍する女性消防士を取り上げました。そんな職業とジェンダーを結びつけるイメージはいまも根強く残っていますが、社会の変化とともに、その固定観念を見つめ直す時がきています。

今回は、看護師を目指す大学生の男女に、進路や学び、そしてその過程で感じたジェンダーギャップについて語ってもらいました。現場での実習体験などで直面する男女差、将来の展望など、率直な声から見える“いま”の看護学生のリアルをお届けします。

※SDGs（17 のゴールから構成。2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。）

看護学生が語る、学びと葛藤

～ジェンダーの視点から看護を考える～

今回の取材に応じてくれたのは、東邦大学健康科学部看護学科異文化看護実習コースの４年生です。（男性１名、女性３名）
すでに現場での実習を終え、今後の医療を支える担い手となる若い力。そんな彼らに、これまでの学びや実習で感じたこと、そしてこれからの看護に求められる姿勢について伺いました。

編集委員と対談形式での取材風景。
奥の大学生４名の左から順にＴさん、Ｏさん、Ｓさん、Ｎさん（Ｎさんは男性）。

看護師を目指したきっかけ

編集委員：看護師というお仕事を志した理由を教えてください。

Ｏ さん：高校のときに何になりたいかなって考えたときに、やりがいのある仕事に就きたいと思いました。姉が看護学生だったこともあるのですが、看護師はありがとうって感謝の言葉をいただける機会が多いかな、そういう職業って素敵だなと思って目指しました。

Ｎさん：大学を選ぶ際に何をしたいかなと考えたときに、小学生の時に出会った看護師さんがすごく手際良く採血をしてくれて、安心できて憧れたことを思い出しました。コミュニケーションをとるのが好きだったので、人と関われる看護師になりたいなと目指しました。
母が医療関係の仕事をしている影響もありました。

男子学生は少数派

編集委員：看護師は女性のイメージがいまだに強い仕事だと思いますが、皆さんの学部での男女比率はどれくらいですか？

Ｎさん：60 人くらいの学部の中で男性は自分一人です。（入学前はまさか一人だけとは思っておらず）最初の頃はやめたいなと思うこともありましたが、グループ活動などを通じて友達ができるにつれて、やっていけるかなと思えるようになりました。

性別の壁

編集委員：女性が多数派の中で男性が１人だけとなると、やはり演習などで苦労されましたか？
また、女性側からはどのように思いましたか？

Ｎさん：演習は学生同士ペアを組んで行うことが多く、周りが女性ばかりなのでやりづらさはありました。例えば、車いす移乗（患者を車いすへ乗せること）や体位変換（患者の体位を別の体位へ変える援助）の演習は、どうしても体に触れてしまうので。やっぱり異性だといやかなっていうのは感じながらやってました。

Ｓさん：私は基本誰に触れられても嫌ではありませんでしたが、（演習のためなので）もし触れられたくない相手がいたとしてもイヤですとは言わないと思います。
ただ、私が同性の友達と演習した際は、触れるのを断られたこともあったりしたので、（同性異性にかかわらず）人によっては誰からも触れられるのが嫌だという人もいるのかなと思います。

編集委員：実習で患者の方と関わった際はどうでしたか？

Ｎさん：実習現場では産婦人科などで女性患者の方に接する機会がありました。その際は看護師や教員を通じて男性看護学生が入って良いか許可を取ってから受け持たせていただきました。
触診する際も「男性がやっても大丈夫ですか？」と確認しながら行い、ご本人の意思を尊重できる体制づくりがなされていたかと思います。

Ｏさん：触診については、羞恥心があって女性の学生でも受け入れられない、という方もいました。

編集委員：男性だから、女性だから、というよりも人それぞれ違いがあるということかもしれないですね。

T さん：例えば心の性と体の性が一致しないような方と接する機会もあると思うんです。その場合、「私は性に対してちょっと特別な人です」って始めから言える方って少ないと思うんです。なので、私が看護師になったら、少しずつお話を傾聴して関わり理解し合っていく中で、それに沿った支援ができたらいいなって考えています。

開かれていく看護の未来

編集委員：今後、男性看護師が増えていって、看護の現場がこうなってほしいな、という思いはありますか？

N さん：男性看護師が増えていくことで、患者さんにとっての選択肢も増えますし、力や体力の面でも要望に応えられる幅が広がると思うので、やはり増えてほしいなと思います。

それと、実習で高齢の患者さんを受け持たせていただいた時、「看護婦さん」って呼ばれたことがあったので、やはり昔からの偏見のようなものが根強く残っているのかな、とも感じました。男性看護師が増えて、男性でもなれる職業なんだと広まってくれれば、そういった意識も変わっていくのかな、と思います。

S さん：私が実習に行った際に担当してくださったのが男性看護師の方だったんですが、入浴介助のような力が必要な仕事は主軸になってなさっていました。

腰を痛めたり体の限界を感じて退職してしまう女性看護師の話を聞いたりするので、男性がいることで効率よく、うまい具合に分散できるようになれば、もっと仕事を続けられる人も増えて職場全体が良くなるかもなと思います。

同じ学年では N さんしか男子学生はいませんが、ほかの学年や大学では結構いたりする印象があるので、全体的に見れば志望者は増えているのかなって思います。

O さん：私も実習などを通して男性看護師が増えてきたなって感じますが、看護に関わりがない友達からは「男性っているの？」と聞かれたことがあります。

もっと男性看護師が当たり前のような環境になって働いていけたらいいなって思いますし、男性が増えたらチーム医療でカンファレンス（医療関係者間での話し合いのこと）などをするときに、無意識に女性目線の意見が集中してしまった時などに男性の方がいてくれると、どっちの目線からも意見が出て、もっと質の高い看護が提供できる環境になるのかなって感じます。

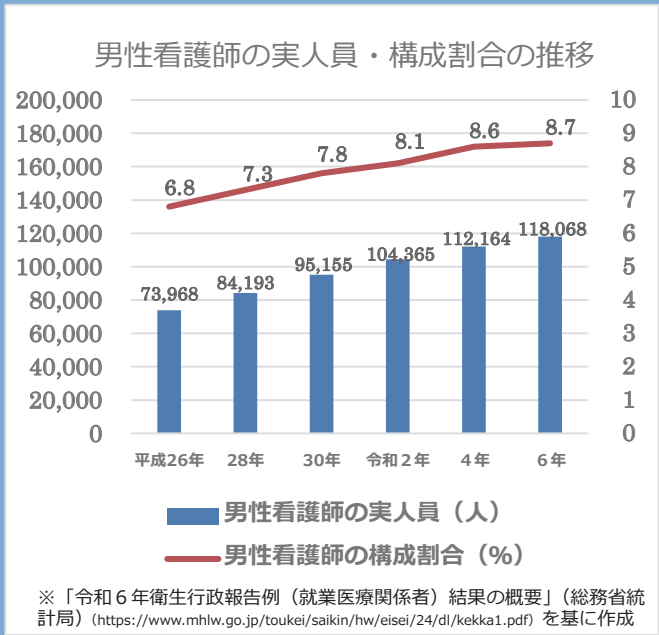
T さん：これからはもう男性の仕事とか女性の仕事とか、昔からの偏見とかが少しずつなくなって、同じくらいの男女比率で働ける職場になればいいと私も思いました。

患者さんにとっても、私達が看護師になった時を考えても、補えるところがお互いにあると思うので、少しずつ進んでいければと思います。

グループワークの風景を撮影した１枚。未来の医療現場の担い手となるべく、日夜勉学に励んでいます。

編集後記

厚生労働省における調査によると、男性看護師の割合は全体の約 8.7%となっており、年々上昇傾向にあるものの、まだまだ低い値に留まっている現状です。



※「令和６年衛生行政報告例（就業医療関係者）結果の概要」（総務省統計局）（https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei/24/dl/kekka1.pdf）を基に作成

今回の取材では、看護の現場を目指す学生たちの多様な価値観や、ジェンダーについての率直な思いを聞くことができました。“男性だから”“女性だから”ではなく、“その人らしさ”を支える看護を。未来の看護師たちは、ジェンダーを超えて、寄り添う看護を実践しようとしていました。

編集委員のおすすめ図書

「結婚とわたし」

著者： 山内マリコ
ちくま文庫（筑摩書房）（発行 2024 年）
貸出番号：367-Ａ-159

女性というだけで無条件にのしかかる家事負担。家庭内男女平等を目指して身の回りのあれこれを拾い上げ、家庭内でのフェミニズム教育&バトルをする方もされる方もいかにハードだったかが書き記されています。男女が対等な関係性を保つのは至難の業だけれど、それを承知した上で結婚に飛び込み、相手と真正面からぶつかり合いながら愚痴っぽい日記という形をとり、フェミニズムの入口になるような読み物です。本書は 2017 年にマガジンハウスより刊行した単行本『皿洗いするの、どっち?目指せ、家庭内男女平等!』の文庫版です。

東邦大学生のおすすめ図書

「せかいでさいしょにズボンをはいた女の子」

作：キース・ネグレー
訳：石井睦美
光村教育図書（発行 2020 年）
貸出番号：367-Ｉ-147

「わたしは男性の服を着ているのではありません。わたしはわたしの服を着ているのです。」ズボンをはくことが女性に認められていなかった時代に「自分らしくいきる」ことを選んだ女の子の物語です。女の子がズボンをはけないことをおかしいと思っていたメアリーは、思い切ってズボンを履くことにします。しかし、周囲のひとに女性らしい服装でないことに反対されてしまいます。そんなとき、あることがきっかけで周囲の人の考え方がかわっていきます。人と違っていても自分らしくいきることの大切さや多様性を認め合うことの重要性を気づかせてくれる一冊です。

（記事作成：東邦大学健康科学部４年　Ｓさん・Ｎさん）

東邦大学生のおすすめ図書

「ジュリアンはマーメイド」

文・絵：ジェシカ・ラブ
訳：横山和江
株式会社サウザンブックス社（発行 2020 年）
貸出番号：367-Ｉ-149

主人公は男の子のジュリアン。マーメイドが好きで憧れを持っています。ある日、おばあちゃんと一緒に地下鉄に乗っているときにマーメイドに出会い、それをきっかけに自身の個性を表現するすばらしさに気付いていきます。この絵本は、言葉は少ないながらも美しい描写からジュリアンの気持ちや周囲の雰囲気が豊かに伝わってきます。男の子であるジュリアンが「マーメイドになりたい」と純粋に願う姿が描かれており、「好きなもの」や「なりたい自分」を自由に表現して良いというメッセージが込められています。ありのままの姿や気持ちを優しく受け止める大切さを感じさせてくれる１冊です。

（記事作成：東邦大学健康科学部４年　Ｏさん・Ｔさん）

◆上記の図書は男女共同参画センターで貸し出しています◆

図書の貸し出しについて
＊市内在住・在勤・在学者対象
＊１回５冊まで、期間は２週間
右記 QR コードから市ホームページ内「情報ライブラリ」にアクセスし、男女共同参画センター図書一覧から本を決定、ちば電子申請サービスまたはお電話でお申込みください。
電話：047（453）9307

きらきら★キーワード

「ウェルビーイング（Well-Being）」

ウェルビーイングとは、心身ともに健やかで充実した「よい状態」を表す概念です。この考え方は、WHO （世界保健機関）が健康を「単に病気がない状態ではなく、身体的・精神的・社会的にすべてが満たされた状態」と定義したことから広く知られるようになりました。ウェルビーイングには二つの側面があります。一つは、個人が感じる幸福感や充実感といった主観的な側面。もう一つは、平均寿命や収入水準など、データで測定できる客観的な側面です。近年、働き方改革やライフスタイルの多様化が進む中で、性別に関係なく全ての従業員が生き生きと働ける職場環境を目指す「ウェルビーイング経営」が注目を集めています。男女共同参画推進においても、このような包括的な視点が重要となっています。

◆男女共同参画コラム◆

「男女共同参画に関する市民意識・事業所調査から」

1999 年６月、男女平等を目指す「男女共同参画基本法」が制定されましたが、世界経済フォーラムが算出している男女格差の指数において日本は 148 カ国中 118 位と現在も低いです。さて習志野市の現況ですが、市内在住の 18 歳以上の男女と事業所を対象にした調査によると、「女性が働く事について、結婚や出産にかかわらず仕事を持つ」という回答の割合が、平成 30 年と比較して令和 6 年で高く変化しています。有給休暇・育児休業・介護休業も取得し易くなっており、「女性従業員の定着率も向上している」という結果は、市内事業所の改善努力の賜物だと思われます。※上記調査結果は習志野市 HP（右記の QR コード）に掲載してあります。

女性の生き方相談

＊無料　＊要予約　＊秘密厳守　＊市内在住・在勤・在学者対象

◎夫婦のこと　◎家族のこと　◎人間関係のこと　◎自分自身の生き方について　◎これはＤＶ？（ドメスティック・バイオレンス）…など　　初めての方も安心してご相談ください。

＜面接相談＞女性の専門相談員があなたと一緒に考えます。

日時：第１・第３金曜（夜間相談）
午後１時 30 分～4 時 15 分・午後５時 30～8 時 15 分
第２・第４火曜、第３水曜
午前９時～11 時 45 分・午後１時～4 時 45 分

相談時間：１回 45 分　　**予約専用番号**：070-1594-9399

きらきら編集委員募集中！

「きらきら」は、市職員と市民ボランティアの編集委員が協働で発行しています。
編集会議は平日の月１回で、オンラインによるリモート参加も可能です。ご見学いただくこともできますので、ご興味がある方は多様性社会推進課までご連絡ください。

よりよい紙面づくりのため、記事等に関するアンケートを実施しています。皆さんの率直なご意見・ご感想をお聞かせください。
【回答方法】
右記の QR コードから回答してください。

習志野市男女共同参画社会づくり情報紙 きら Kira Kira きら

発行年月　2025（令和７）年９月
編集・発行　習志野市多様性社会推進課
きらきら編集委員会（市民ボランティア５名）
所在地　〒２７５－８６０１　習志野市鷺沼２－１－１
ＴＥＬ　０４７（４５１）１１５１（代表）
ＦＡＸ　０４７（４５３）５５７８